

主要産地における令和2年産水稻の生育状況等について 第9報 (7月14日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和2年7月14日)

道府県	区分	生育状況等		(参考)	
		育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)	技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体、気象台等公表資料の抜粋)		
北海道		<p>【生育状況 (7月1日現在)】</p> <p>(全道) 生育は、平年並に進んでいる。(北海道農政課 7月6日付)</p> <p>(空知) 生育は平年並である。(空知総合振興局 7月6日付)</p> <p>(石狩) 生育は平年並である。一部で幼穂形成期に入っている。(石狩振興局 7月6日付)</p> <p>(後志) 遅速は±0日。(後志総合振興局 7月6日付)</p> <p>(胆振) 生育は平年並。(胆振総合振興局 7月6日付)</p> <p>(日高) 生育は平年並である。(日高総合振興局 7月6日付)</p> <p>(渡島) 生育は順調。分けつは良好で、茎数は多い。(渡島総合振興局 7月6日付)</p> <p>(檜山) 生育は概ね平年並で推移。(檜山振興局 7月6日付)</p> <p>(上川) 生育の遅速は、平年並に推移している。(上川総合振興局 7月6日付)</p> <p>(留萌) 生育は平年並に進んでいる。日照不足と気温の日較差が小さいため、茎数が少ない。(留萌振興局 7月6日付)</p> <p>(オホーツク) 生育はやや進んでいる。(オホーツク総合振興局 7月6日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>北海道地方の向こう1か月の平均気温は、日本海側と太平洋側で平年並か高い見込み。オホーツク海側で、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並か多い見込み。日照時間は、平年並か少ない見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期警戒情報】</p> <p>7月19日頃から8月10日までの高温(5日間平均気温平年並+2.6℃以上)の可能性 (気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>北海道地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p>	<p>・主要品種に大きな変動はないものの、直播栽培に選んだ新品種「さみまる」が増加すると見込まれる。</p> <p>(農林水産省 3月17日)</p> <p>(以下同)</p>
		<p>【7月10日現在】</p> <p>(黒石)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「つがるロマン」は草丈が61.9cmで平年より3.2cm長く、株当たりの茎数は28.0本で3.2本少なく、葉齢は10.7葉で0.3葉多かった。幼穂形成期の到達日は7月9日で平年より3日早かった。 「青天の霹靂」は草丈が70.6cmで平年より7.2cm長く、株当たりの茎数は24.3本で4.6本少なく、葉齢は9.4葉で平年並であった。幼穂形成期の到達日は7月6日で平年より4日早かった。 「まっしぐら」は草丈が64.8cmで平年より0.4cm長く、株当たりの茎数は25.7本で6.9本少なく、葉齢は8.8葉で0.2葉少なかった。幼穂形成期の到達日は7月5日で平年より4日早かった。 <p>(十和田)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「まっしぐら」は草丈が59.0cmで前年より1.8cm短く、株当たりの茎数は17.5本で12.5本少なかった。幼穂形成期の到達日は7月6日で前年より5日早かった。 <p>(青森県 7月14日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込み。降水量は日本海側で多く、太平洋側は平年並か多い見込み。日照時間は日本海側で少なく、太平洋側で平年並か少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「つがるロマン」「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり、令和2年産も同様の傾向にならものと考えられる。</p>
岩手		<p>【7月6日現在】</p> <p>(1) 農業研究センター (北上)</p> <p>全体的に、草丈は平年を上回り、茎数は平年並かやや多く、葉齢は平年並である。葉色は平年並かやや薄く、6月30日時点より低下している。「あきたこまち」「銀河のしずく」は6月30日に、「ひとめぼれ」は7月3日に穂百分化期に達しており、平年より1～2日早まっている。</p> <p>(2) 県北農業研究所 (軽米)</p> <p>「むつてっぴ」の草丈、茎数は平年を下回り、葉齢は平年並かやや上回っている。葉色は平年よりやや薄く、6月30日時点より低下している。穂百分化期は6月30日に達し、平年より1日早まっている。(岩手県 7月8日付)</p> <p>【7月9日現在】</p> <p>(3) 大船渡農業改良普及センター「あきたこまち」「銀河のしずく」「ひとめぼれ」各品種とも平年より早く幼穂形成期に達している。(大船渡農業改良普及センター 7月13日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込み。降水量は日本海側で多く、太平洋側は平年並か多い見込み。日照時間は日本海側で少なく、太平洋側で平年並か少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする構成となっている。県では「ひとめぼれ」「あきたこまち」からオリアリ品種「銀河のしずく」に転換を図ることとしている。</p>
		<p>【7月10日現在】 (県全体の平均)</p> <ul style="list-style-type: none"> 草丈は 62.7cm (平年比105%)、1㎡当たりの茎数は539本(平年比96%)、葉数は10.8枚(平年並±0枚)、葉色はG値が41.1(平年並+6)となっている。幼穂長は1.0mm(平年並-1.0mm)となっており、北部平原地帯での幼穂形成期は7月～10日頃で生育は概ね順調である。 今後の気温が平年並みで推移した場合、北部平原地帯における出穂期は8月2日頃になる見込み。(宮城県 7月13日付) <p>(美里) 北部平原地帯の出穂期は、8月2日頃の予測(平年値:8月2日)(美里農業改良普及センター 7月14日付)</p> <p>(栗原) 生育調査(移植)生育状況(7月10日現在)多くのほ場で幼穂形成期に達している。(栗原農業改良普及センター 7月13日付)</p> <p>(石巻) 草丈は「ひとめぼれ」「ササニシキ」共に平年に比べて長くなっている。茎数は「ひとめぼれ」と「ササニシキ」共に平年より少なくなっているが、有効茎数を確保している。7月10日現在の予測では、管内の出穂日は8月3日ごろの見込。(石巻農業改良普及センター 7月14日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込み。降水量は日本海側で多く、太平洋側は平年並か多い見込み。日照時間は日本海側で少なく、太平洋側で平年並か少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、「つや姫」が増加傾向となっている。「つや姫」「あきたこまち」等の多収性品種が増加傾向となり、一定のウエイトを占めてきた。</p>
秋田		<p>(由利) 6月25日の水稲定点調査結果(2品種・移植5か所平均)によると、草丈は41.2cmで平年よりやや長く(平年比109%)、㎡あたり茎数は485本で平年よりやや多い(平年比105%)。葉数は9.0葉で平年よりやや多く(平年並+0.4葉)、葉色は42.7で平年より濃くなった(平年並+1.6葉)。(6月26日付)</p> <p>(秋田) 6月25日の調査では、草丈がやや高く、葉数、葉色は平年並みとなっている。(6月26日付)</p> <p>(山本) 6月25日の水稲定点調査結果(あきたこまち9地点平均)は、草丈40.6cm(平年比112%)、葉数466本/㎡(平年比119%)、葉数9.0(平年並+0.4)葉、葉緑素計値(SPAD値)44.3(平年比100%)。ほ場間差はあるものの、概ね目標茎数450本/㎡を確保している。(7月3日付)</p> <p>(平本) 6月25日現在の水稲定点調査(あきたこまち11か所)では、草丈36.7cm(平年比105%)、葉数399本/㎡(同比124%)、葉数8.7葉(同並+0.5葉)となっている。(6月26日付)</p> <p>(鹿角) 6月25日の水稲生育点調査では、草丈39.4cmで長く(平年比105%)、㎡あたり茎数は491本で多く(平年比127%)、葉数は9.0葉でやや多く(平年並+0.2)、葉色はSPA D値43.4で薄い(平年比95%)。(7月3日付)</p> <p>(北秋田) 6月下旬以降、日気温較差が小さい日が続き、茎数増加が抑制され生育は平年並み。病害虫の目立った発生は見られていない。(7月10日付)</p> <p>(雄勝) 本年は気温が高めに推移したことから、分けつが発生が促進された。(7月3日付)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込み。降水量は日本海側で多く、太平洋側は平年並か多い見込み。日照時間は日本海側で少なく、太平洋側で平年並か少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はないものの、「めんこいな」「ゆめぼこ」等の多収性品種が増加傾向となり、一定のウエイトを占めてきた。</p>
		<p>・7月9日現在、平田部「はえぬき」の生育は、草丈が平年よりやや長く、茎数、葉数、葉色は、平年並みとなっている。農業総合研究センターの幼穂調査によると、出穂期は全般的にやや早いと予想している。「雪若丸」は、指穂値と比べ草丈は指穂値並み、茎数は多く、葉数はやや多く、葉色は濃くなっている。(7月9日付)</p> <p>(山形おひしき取立つ！米づくりプロジェクト本部 7月9日付)</p> <p>(西村山) 生育は旺盛で、平年より2日程早まっている。(西村山農業技術普及課 7月13日付)</p> <p>(東南置賜) 7月9日現在の生育は、概ね平年並みの状況。出穂期は平年並み～2日早い予想(平田部「はえぬき」)。(置賜農業技術普及課 7月13日付)</p> <p>(東南村山) 「つや姫」「雪若丸」出穂予想は「つや姫」が8月6日、「雪若丸」が8月2日と見込まれる。(村山総合支庁農業技術普及課 7月10日付)</p> <p>(西置賜) 「はえぬき」「つや姫」「雪若丸」7月9日現在の生育は、草丈は平年より長く、茎数は依然としてほ場の差が大きく、葉数は平年並～やや多く、葉色はやや濃い状況。出穂期は平年並～2日早い予想。(置賜総合支庁産業経済部西置賜農業技術普及課 7月10日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込み。降水量は日本海側で多く、太平洋側は平年並か多い見込み。日照時間は日本海側で少なく、太平洋側で平年並か少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「はえぬき」「つや姫」「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島		<p>【7月7日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業総合センターの作柄解析試験コンヒカリの生育調査によると、本部(郡山)では、平年より草丈はやや短く、葉数はやや少なく、主稈葉数はやや多く、葉色は濃くなっている。 会津地域研究所(会津坂下)では、草丈は平年より長く、茎数は平年よりやや多く、主稈葉数はやや多く、葉色は濃くなっています。 浜地域研究所(相馬)では、平年より草丈はやや長く、茎数は少なく、葉数はやや多く、葉色はやや濃くなっています。 <p>・主産出葉からみた生育は、本部と会津地域研究所では平年より3日多く、浜地域研究所では9日早くはなっているが、幼穂形成期は各地域とも平年並かやや早まる程度と見込まれる。(福島県農林水産部農業振興課 7月9日付)</p> <p>(南会津)</p> <ul style="list-style-type: none"> 管内水稲作柄判定日の生育状況(6/22時点)は、全体的に生育は良好。「里山のつづ」「ひとめぼれ」「コンヒカリ」(南会津農林事務所 7月10日付) 		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込み。降水量は日本海側で多く、太平洋側は平年並か多い見込み。日照時間は日本海側で少なく、太平洋側で平年並か少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「コンヒカリ」「ひとめぼれ」を中心とする品種構成で、近年「天のつづ」が増加傾向となっている。</p>

	生育状況等		
茨城	<p>【水稲の生育状況（6月29日現在、水戸市）】 （5月1日移植・対平年遅速） 「あきたこまち」平年並、「ふくまる」1日早い、「コシヒカリ」2日遅い。</p> <p>（5月11日移植・対平年遅速） 「コシヒカリ」平年並。（茨城県農業総合センター農業研究所 7月1日付）</p> <p>（生育）</p> <p>【水稲の生育状況（7月6日現在、龍ヶ崎市）】 （4月24日移植・対平年遅速） 「あきたこまち」2日遅い、「ふくまる」1日早い、「コシヒカリ」3日遅い。</p> <p>（5月7日移植・対平年遅速） 「あきたこまち」6日遅い、「コシヒカリ」4日遅い。（茨城県農業総合センター農業研究所 7月8日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】 関東甲信地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か少ない見込み。 日照時間は平年並か少ない見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。 なお、オリジナル品種「ふくまる」がやや増加傾向にある。</p>
栃木	<p>【7月6日生育調査】</p> <p>(1) コシヒカリ ・草丈は高く（平年比107%）、茎数は多く（106%）、葉齢は平年より0.1多い。葉色は前回の調査では平年より0.8淡く、生育診断値（葉色×茎数）は平年比91%であったが、葉色は平年並に回復し、生育診断値（葉色×茎数）は平年比105%となった。 ・幼穂は0.6mm（昨年比0.9mm）となっている。現地ほ場は茎数が304～503本/m²で、葉色は一部淡いは場が見られる。</p> <p>(2) とちぎの星 ・草丈は高く（平年比111%）、茎数はやや少なく（96%）、葉齢は平年より0.2少ない。葉色は平年より0.6淡く、生育診断値（葉色×茎数）は平年比83%となっている。 ・現地ほ場は茎数が313～519本/m²で、葉色はやや濃い。普通穂栽培（6月16日移植：足利市）は茎数確保が順調に進んでいる。</p> <p>(3) 宇都宮市で5月4日移植コシヒカリの出穂は7月27日～28日頃と昨年より4～5日早い予想。（栃木県 7月10日付）</p> <p>（生育）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】 関東甲信地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 日照時間は平年並か少ない見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。なお、オリジナル品種「とちぎの星」がやや増加傾向にある。</p>
千葉	<p>・7月上旬は日照時間が少なかったものの、気温が平年よりも高く推移したため、生育の進みは早生・中生で平年並み、晩生でやや早くなっている。</p> <p>（生育）</p> <p>・4月2日植えの出穂期は、「ふさおとめ」が7月8日頃（平年より2日早い）、「ふさこがね」が7月11日頃（2日早い）、「コシヒカリ」が7月15日頃（3日早い）、「粒すけ」が7月15日頃（3日早い）。</p> <p>・5月1日植えの「コシヒカリ」は7月22日頃（3日早い）から出穂期を迎えると予測される。 （千葉県 7月9日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】 関東甲信地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 日照時間は平年並か少ない見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」「ふさこがね」「ふさおとめ」を中心とする品種構成であり、近年「ふさこがね」が増加傾向にある。</p>
新潟	<p>【7月8日現在の生育状況】 「コシヒカリ」 指標値に比べ、草丈は「並」、葉数の進みは「並」、茎数と葉色は地域差が大きき「少ない～多い」、「並～濃い」状況。生育は2日程度早い状況。 「新之助」 指標値に比べ、草丈は「やや長い」、葉数の進みは「並」、茎数と葉色は地域差が大きき「少ない～多い」、「並～濃い」状況。「こしいぶき、ゆきん子舞、つきあかり」「こしいぶき、ゆきん子舞、つきあかり」 長岡市に設置した調査ほ場では、葉数の進みは並～やや早め、茎数は「並～やや少ない傾向」となっている。「こしいぶき（5月11日植え）」は7月6日に幼穂形成期を迎えている。（新潟県 7月9日付）</p> <p>(三 条) 「コシヒカリ」生育はほぼ指標値並で順調。連休(5月5日)植えで幼穂形成期は7月10日頃(出穂予想:8月2日頃)。 (三条農業普及指導センター 7月8日付)</p> <p>(長 岡) コシヒカリ（5月10～15日植え）の出穂期は、昨年より2日遅い8月3日の予想（長岡農業普及指導センター 7月8日付） (魚 沼) 草丈「やや長い」、茎数「並」、葉色「並」、葉色「やや濃い」。（魚沼農業普及指導センター 7月8日付） (南魚沼) 出穂が前年と同程度早まる見込み。（南魚沼農業普及指導センター 7月9日付） (上 越) 「コシヒカリ」の生育は、葉色が濃く、茎数確保が順調です。官位期間の伸長による倒伏の発生が懸念され、もみ数過剰となる恐れがある。「こしいぶき」の生育は、草丈はやや長く、茎数は多く、葉色は濃くなっている。（上越農業普及指導センター 7月8日付） (糸魚川) 現時点の予想では、出穂期（平均）は平年に比べて1日早く、前年並で8月3日頃の見込み。 (糸魚川) 地域振興局農林振興部 7月8日付)</p> <p>(佐 渡) コシヒカリの出穂期は「平年並」と予想され、5月10日植えで8月7日頃と予想される。 (佐渡農業普及指導センター 7月8日付)</p> <p>(新発田) 【管内のコシヒカリ生育状況】7月8日現在、指標比で「草丈：並」、「茎数：やや多」、「葉色：並」。 出穂は平年に比べ3日程度早い（前年並）（新発田農業普及指導センター 7月9日付） (新 潟) (生育調査結果(7月8日調査)) (出穂予測) 「こしいぶき」7月25日、「コシヒカリ」8月4日、「新之助」8月10日 (新潟農業普及指導センター 7月9日付)</p> <p>(岩 船) コシヒカリの出穂期は、平年に比べ2日程度早まり昨年並みの見込み。（村上農業普及指導センター 7月9日付） (巻) コシヒカリの出穂期は平年より2日程度早い見込み。（巻農業普及指導センター 7月8日付） (柏崎) 前調査から草丈が急伸長（1日当たり1.5cm程度伸長）し下位節間の伸長・倒伏が心配される。 (柏崎農業普及指導センター 7月8日付)</p> <p>(十日町) 草丈は並、茎数は並、生育の早晚は並となっている。全体的には、初期の過剰生育が抑えられ指標値並の生育となっているが、床場によるバラツキは大きい。早生品種では幼穂形成期を過ぎている。移植の早いコシヒカリでは幼穂形成期となっている。（十日町農業普及指導センターほか 7月8日付）</p> <p>（生育）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】 北陸地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量は多く、日照時間は少ない見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少傾向にある。また、県では新品種「新之助」の作付拡大を推奨している。</p>
富山	<p>【7月7日生育観測】</p> <p>(1) コシヒカリ 平年に比べ、草丈、茎数および葉色は並み、葉齢はやや進んでいる。葉齢を揃えて比較すると、草丈、茎数および葉色は平年並みとなっている。生育量（草丈×茎数×葉色÷1000）は134と、平年（138）並みとなっている。幼穂形成期は、平年より2日早い7月10日頃と見込まれる。今後、気温が近年並みに推移すると、出穂期は、平年より2日早い7月31日頃と見込まれる。</p> <p>(2) てんこもり 平年に比べ、草丈、葉齢は並み、茎数はやや少なく、葉色はやや淡くなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は平年並み、茎数はやや少なく、葉色はやや淡くなっている。幼穂形成期は、平年より1日遅い7月14日頃と見込まれる。今後、気温が近年並みに推移すると、出穂期は、平年より1日遅い8月5日頃と見込まれる。</p> <p>(3) てんたくく 出穂期は、平年より6日早い7月14日頃と見込まれる。</p> <p>(4) 富富富 近年に比べて、草丈、葉色は並み、茎数はやや少なく、葉色は濃くなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈、茎数および葉色は平年並みとなっている。幼穂形成期は、近年より1日早い7月1日頃と見込まれる。今後、気温が近年並みに推移すると、出穂期は、近年より1日早い8月2日頃と見込まれる。（富山県 7月7日付）</p> <p>（生育）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】 北陸地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量は多く、日照時間は少ない見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、高温多湿でも品質が安定している「てんこもり」「富富富」が増加傾向にある。</p>
石川	<p>【本田の生育7月8日調査】</p> <p>(出穂期予想)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ゆめみづほ」は、加賀地域では平年に比べ3～5日程度早く、前年に比べ1～2日程度早い。 能登地域では平年に比べ5日程度早く、前年並。 「コシヒカリ」は、加賀地域では平年より比べ4日程度早い～平年並で前年並。 能登地域では平年に比べ2～7日程度早く、前年並。 <p>（石川県農林総合研究センター 7月9日付）</p> <p>（生育）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】 北陸地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量は多く、日照時間は少ない見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年県オリジナル品種の「ひくまん穀」が増加傾向にある。</p>
福井	<p>【7月9日調査】</p> <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長雨の影響により、いもち病の発生が見られる。 ・移植のコシヒカリは、早いところで7月10日 前後に幼穂形成期を迎えている。 <p>（水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月10日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】 北陸地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量は多く、日照時間は少ない見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」「ハナエチゼン」を中心とする品種構成であるが、近年「コシヒカリ」が増加傾向、「あきたこまち」が増加傾向にある。なお、新品種である「いちほまれ」も増加傾向にある。</p>
長野	<p>【7月7日現在】（標高107m版村の原村試験地における水稲生育状況） ・移植後40日調査ではいづれの品種も管理葉数、草丈は平年並み～やや進んでいる。茎数は平年より「きらりん」で多く、「ゆめしなの」、「あきたこまち」でやや少ない。幼穂形成期は「きらりん」で平年より2日早かった。 （長野県農業試験場 7月7日付）</p> <p>(生育)</p> <p>【7月3日現在】（伊那米試験地） ・田植え50日後の生育状況は、「コシヒカリ」で草丈は平年より長く（107%）、茎数は概ね平年並（98%）となっている。「もちひかり」は草丈、茎数とも平年を上回っておりますが、「あきたこまち」や酒米は草丈は長いが茎数は平年より少ない状況。 ・幼穂形成期は「あきたこまち」が平年より1日早い（昨年より4日早）6月30日に迎えた。 （上伊那農業農村支援センター 7月3日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】 関東甲信地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 日照時間は平年並か少ない見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県オリジナル品種として「風さやか」の導入を推奨している。</p>

	生育状況等		
滋 賀	<p>【農業技術振興センター水稲作況調査（6月19日時点）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、「みずかがみ」、「コシヒカリ」とも平年より長かった。 ・茎数は、両品種ともに平年より少なかった。 <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉数は、「みずかがみ」が0.3枚多く、「コシヒカリ」は0.4枚多かった。 <p>(滋賀県農業技術振興センター 6月25日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>近畿地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は日本海側で多く、太平洋側で平年並か多い見込み。日照時間は、日本海側で少なく、太平洋側で平年並か少ない見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「日本晴」を中心とする品種構成であるが、近年「コシヒカリ」「キヌヒカリ」が減少傾向となっている。高温寡照性に優れた「みずかがみ」を増加する計画である。
兵 庫	<p>(県北)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリの葉齢の進展は平年よりやや遅く、草丈はやや長く、茎数は少ない。遅植えでは葉齢の進展はやや遅く、草丈はかなり長く、茎数はかなり多い。 <p>(生育)</p> <p>(県北以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い。茎数は多い。 <p>(兵庫県 7月3日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>近畿地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は日本海側で多く、太平洋側で平年並か多い見込み。日照時間は、日本海側で少なく、太平洋側で平年並か少ない見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」「山錦」を中心とする品種構成である。「きめむすび」の作付推進を図っている。
岡 山	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茎数は概ね平年並で推移している。 ・極早生種の生育は概ね平年並である。 <p>(岡山県 7月2日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。降水量は多く、日照時間は少ない見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「アケボノ」「ヒノヒカリ」「あきたこまち」「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。近年「きめむすび」が増加傾向となっている。
広 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。降水量は多く、日照時間は少ない見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あきさかり」が増加傾向にある。
愛 媛		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。
高 知	<p>【早期稲 7月3日時点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂期は、4月6日植えの「南国そだち」と「コシヒカリ」では平年並みで、4月14日植え「コシヒカリ」は平年よりやや早くなっていた。 <p>【普通期稲 7月3日時点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈は平年より低く、茎数が多く、葉齢は平年並みで生育している。 <p>(高知県農業技術センター 7月8日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培では「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年、高温寡照性に優れた「よき恋実入」が増加傾向にある。「南国そだち」は減少傾向。 ・普通栽培では「にこまる」が増加傾向にある。
福 岡	<p>【6月15日現在】</p> <p>(1) 早生水稲（夢つくし、ｺｼﾋｶﾘ） 田植え後、4月の低温の影響で初期生育はやや遅れていたが、5月からの高温多湿により回復。4月下旬植えの出穂期は平年並の7月中旬の見込み。</p> <p>(2) 普通期水稲（夢つくし、元気づくし、ヒノヒカリなど） 5月中旬～6月上旬植えは、田植え後、高温多湿で経過したため、活着が良く生育は順調。麦収穫後の田植えも始まり、平坦地の「夢つくし」は6月上旬、「元気づくし」は6月中旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬が最盛期となる見込み。</p> <p>(福岡県農林業総合試験場 6月15日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は多く、日照時間は少ない見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州北部地方の3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「夢つくし」「元気づくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「夢つくし」「元気づくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後、新品種「夢つくし」の拡大を推奨している。
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は多く、日照時間は少ない見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州北部地方の3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」「コシヒカリ」を中心とする品種構成に、大きな変化はない。
宮 崎	<p>【作物の生育状況（6月中旬）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期水稲は穂ばらみ期、普通期水稲は移植前後（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月23日付） 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みさ358」への作付誘導が進められている。
鹿 児 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月11日～8月10日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「なつほのか」及び「あきほなみ」が増加傾向である。

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：令和2年7月14日 15時時点での取り纏め。
注3：更新箇所は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道 7月6日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月6日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月3日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道日高振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月6日)、
農作物生育状況調査の概要 7月1日現在(北海道留萌振興局 7月6日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月6日)、
作況調査報告(7月10日現在の生育状況)(青森県産業技術センター農林総合研究所 7月10日)、
令和2年度水稲生育定期調査結果No.4(7月6日現在)(岩手県農業研究センター 7月8日)、
令和2年度水稲生育診断(生育状況No.3(7月9日現在)(大船渡農業改良普及センター 7月13日)、
令和2年度水稲の生育状況について(7月10日現在)(宮城県農政部みやぎ米推進課 7月13日)、
令和2年度美里地区の稲作情報第6号(宮城県美里農業改良普及センター 7月14日)、
栗原の稲作通信令和2年第5号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月13日)、
稲作情報(vol.5)(宮城県石巻農業改良普及センター 7月14日付)、
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」http://www.e-komachi.jp/ 7月3日、7月10日)、
米づくり技術情報第8号(山形おいしさと際立つ! 米づくりプロジェクト本部 7月9日)、
つや姫・雪若丸通信第4号(村山農業技術普及課 7月10日)、
西おきたま米づくり情報No.9(西置賜農業技術普及課 7月10日)、
東南おきたま米づくり情報No.9(置賜農業技術普及課 7月13日)、
西村山稲作だより第7号(西村山農業技術普及課 7月13日)、
主要な農作物の生育情報令和2年度第4号(福島県農林水産部 7月9日)、
稲作情報「稲作がんばっぺ! vol.5(南会津農林事務所 7月10日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月1日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月8日)、
令和2(2020)年度水稲生育診断予測事業速報No.4(栃木県 7月10日)、
水稲の生育と当面の対策第5報(千葉県 7月9日)、
水稲の生育と今後の管理対策(第5号)(新潟県 7月9日)、
水稲技術情報No.5(新発田農業普及指導センター 7月9日)、
水稲生育速報No.5(巻農業普及指導センター 7月8日)、
FAX稲作情報No.8(三条農業普及指導センター 7月8日)、
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 7月8日)、
コンヒカリ生育情報(魚沼農業改良指導センター 7月8日)、
稲作情報No.6(南魚沼農業普及指導センター(ほか) 7月9日)、
コンヒカリ・こいぶき生育速報(7月8日)(上越農業普及指導センター)、
稲作管理情報第8号(柏崎農業普及指導センター 7月8日)、
令和2年度糸魚川売れる米づくりコンヒカリ生育情報No.4(糸魚川地域振興局 7月8日)、
令和2年度稲作生育速報No.5(佐渡農業普及指導センター 7月8日)、
十日町地域稲作生育速報(十日町農業普及指導センター(ほか) 7月8日)、
稲作速報No.5(新潟農業普及指導センター 7月8日)、
R2岩船米生育速報(村上農業普及指導センター 7月8日)、
TACS情報第7号(富山県 7月7日)、
令和2年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-7号)(石川県農林総合研究センター 7月8日調査)、
稲作情報No.11(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月10日)、
水稲高標高試験圃の生育状況(令和2年)(長野県農業試験場 7月7日)、
伊那米総合試験地水稲奨励品種決定(生育状況)(上伊那農業農村支援センター 7月3日)、
令和2年度水稲生育診断情報No.2(滋賀県農業技術振興センター 6月25日)、
令和2年度兵庫県農業気象技術情報No.3(7月情報)(兵庫県 7月3日)、
令和2年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 7月2日)、
令和2年度における早期水稲の生育状況(7月3日時点)(高知県農業技術センター 7月8日)、
福岡県の主な農産物の生産情報(福岡県 6月15日現在)、
令和2年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月23日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(7月9日札幌管区气象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(7月9日仙台管区气象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(7月9日気象庁)、
北陸地方こう1か月の天候の見通し(7月9日新潟地方气象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(7月9日大阪管区气象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(7月9日広島地方气象台)、
四国地方こう1か月の天候の見通し(7月9日高松地方气象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(7月9日福岡管区气象台)、
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(7月9日鹿児島地方气象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(6月24日札幌管区气象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し((6月24日仙台管区气象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し((6月24日気象庁)
北陸地方こう3か月の天候の見通し((6月24日新潟地方气象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し((6月24日大阪管区气象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し((6月24日広島地方
四国地方こう3か月の天候の見通し((6月24日高松地方气象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(6月24日福岡管区气象台)、
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し((6月24日鹿児島地方气象台)、

高温に関する早期天候情報(北海道地方)(7月13日札幌管区气象台)

令和2年度水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月17日)